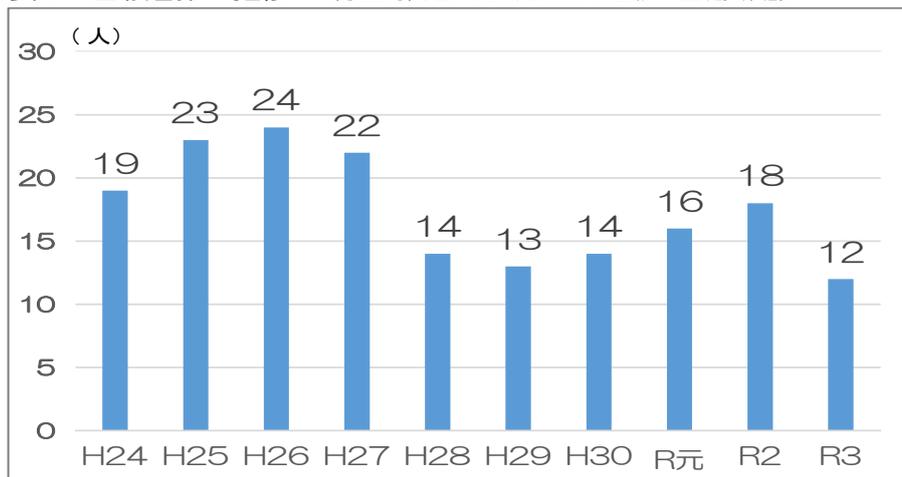
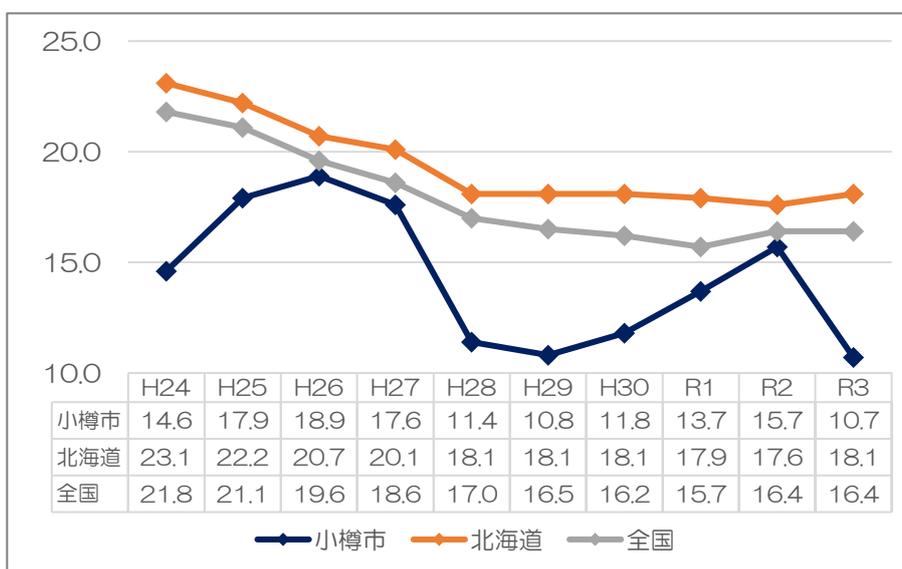


表1 自殺者数の推移 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 令和3年の全国の自殺者数は21,007人で、令和2年より74人(前年比0.4%)減少した。
- 小樽市においては、平成30年から増加傾向が見られていたが、令和3年は減少に転じ自殺者数は12人であった。

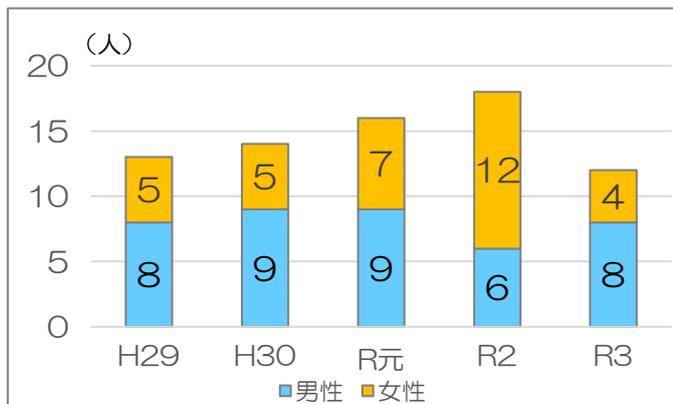
表2 自殺死亡率(人口10万対) (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 小樽市の自殺死亡率は全国、全道に比べて低い状況が続いている。令和3年の自殺死亡率は10.7で、国が掲げている目標(13.0以下)を下回っている。
- 小樽市自殺対策計画数値目標(令和4年までに自殺死亡率15.3以下)を達成している状況。

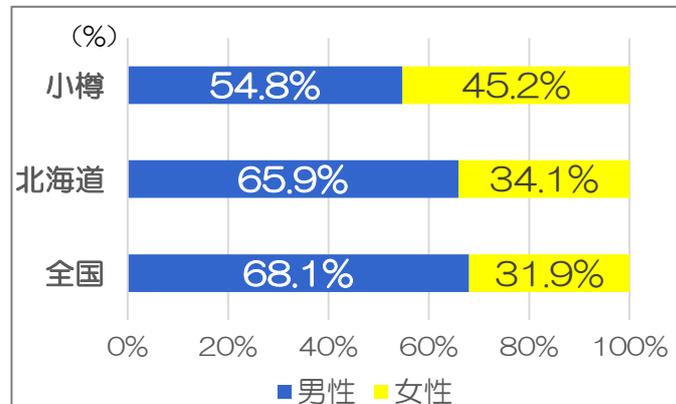
ここからは、主に自殺総合対策推進センターが作成した「地域自殺実態プロファイル(2022)」に基づいて過去5年(平成29年~令和3年)の状況(自殺者数73人)について分析しています。

表3 男女別の自殺者数の推移



(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」)(2022)』

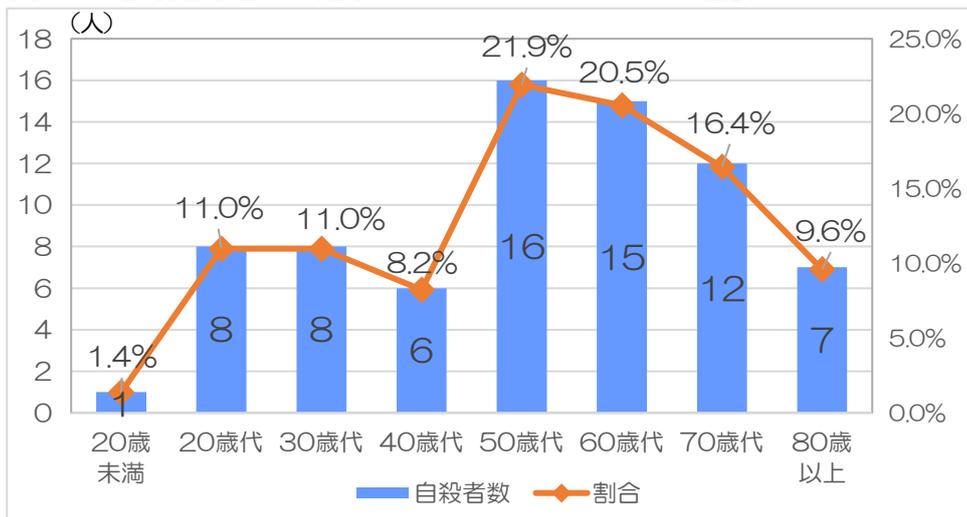
表4 男女別の自殺者数の割合(平成29年~令和3年計)



(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」)(2022)』

- 令和2年は女性の自殺者数が男性の自殺死亡者の2倍と多かったが、令和3年は逆転し男性自殺者数が女性の自殺者数を上回り、経年的には男性の自殺者数が多い。
- 表4より、小樽市は全道・全国と比較し女性の自殺者数の割合が高い。

表5 年齢別自殺者数の推移（平成29年～令和3年 合計）



（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」）（2022）」

- 年齢別で見ると、40歳代の働く世代で自殺者が少ないことが特徴的である。
- 50～60歳代で自殺者が多く全体の4割を占めている。

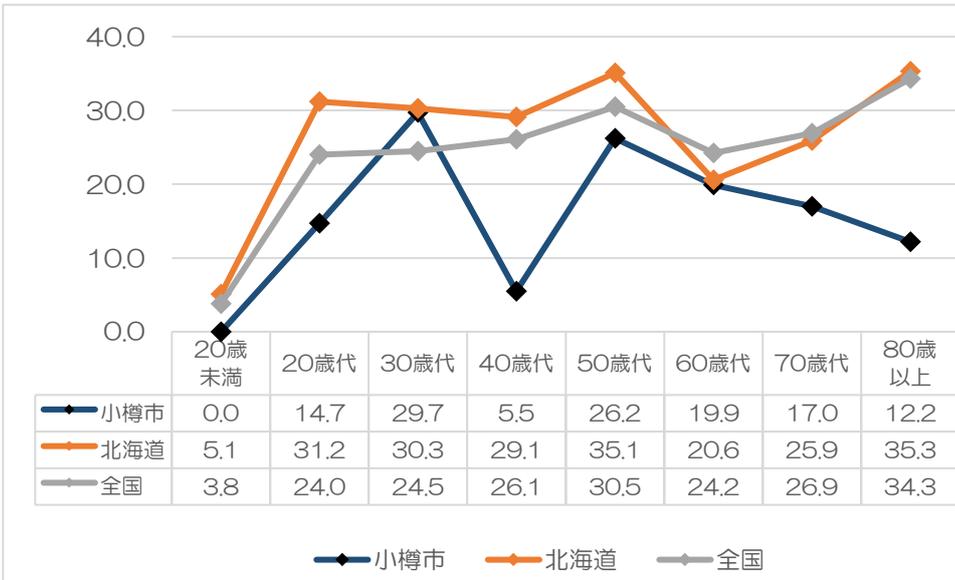
表6 性別・年齢別の自殺者内訳～平成24年～平成28年合計と平成29年～令和3年合計の比較～

| | | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳以上 | 再掲 (60歳以上) |
|----|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| 全体 | H24～H28 | 2.0% | 6.9% | 16.7% | 20.6% | 20.6% | 13.7% | 12.7% | 6.9% | 33.3% |
| | H29～R3 | 1.4% | 11.0% | 11.0% | 8.2% | 21.9% | 20.5% | 16.4% | 9.6% | 46.5% |
| 男性 | H24～H28 | 2.7% | 8.0% | 18.7% | 18.7% | 20.0% | 13.3% | 13.3% | 5.3% | 31.9% |
| | H29～R3 | 0.0% | 7.5% | 17.5% | 5.0% | 22.5% | 22.5% | 17.5% | 7.5% | 47.5% |
| 女性 | H24～H28 | 0.0% | 3.7% | 11.1% | 25.9% | 22.2% | 14.8% | 11.1% | 11.1% | 37.0% |
| | H29～R3 | 3.0% | 15.2% | 3.0% | 12.1% | 21.2% | 18.2% | 15.2% | 12.1% | 45.5% |

（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」）（2020、2022）」

- 平成24～28年の自殺者合計、平成29年～令和3年の自殺者合計の5年ごとの比較で見ると、30～40歳代の働く世代で自殺者数の割合が低下しているが、その他の世代では全体的に上昇傾向である。
- 全自殺者数に占める60歳以上の高齢世代の割合が増えている。

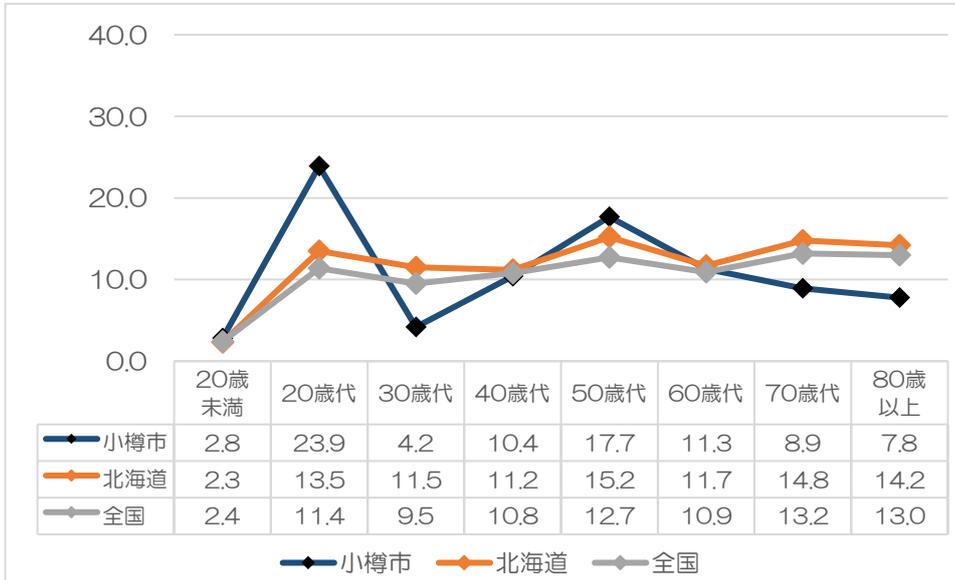
表7 男性の年齢別自殺率（平成29年～令和3年合計（人口10万対））



■男性の自殺率は、全年齢で全道・全国と比較し低いが、特に40歳代の働く世代で低い。

（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」）

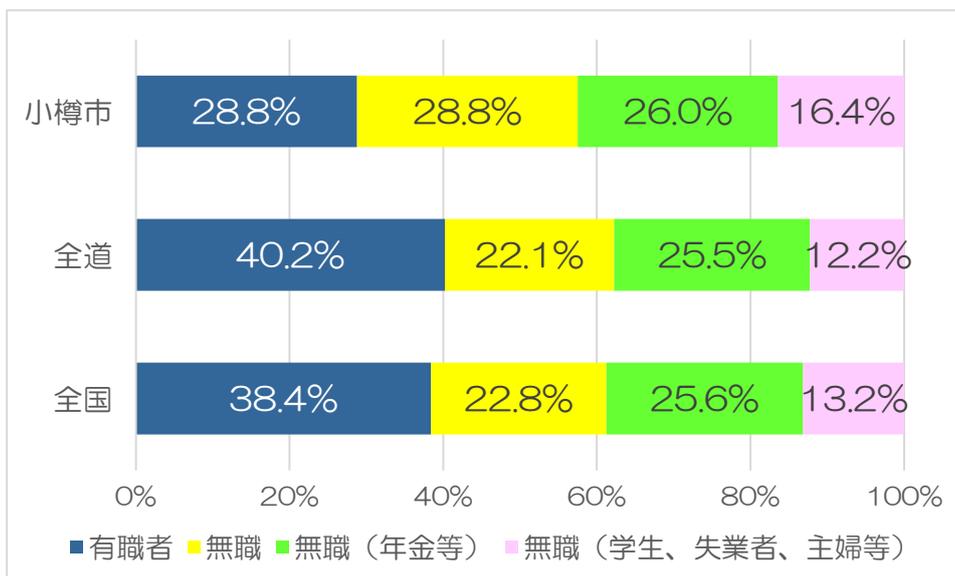
表8 女性の年齢別自殺率（平成29年～令和3年 合計（人口10万対））



■女性は20歳代、50歳代の自殺率が全道・全国と比べて高くなっている。
■30歳代、70歳代以上の世代では全道・全国と比べて低い。

（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」）

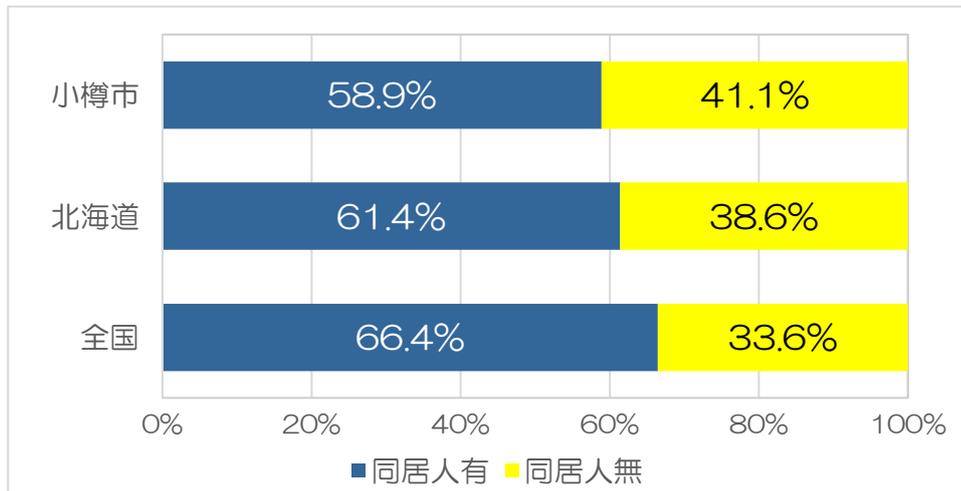
表9 自殺者の職業（平成29年～令和3年 合計）



■小樽市の有職者の自殺者の割合は全道・全国と比較し低く、無職者の割合が全道・全国と比較し高い。
■表7で先述した働く世代（特に40歳代男性）の自殺率の低さは、小樽市は有職者の自殺者が少なく、無職者の自殺が多いことも要因の一つとして考えられる。

※ 有職者・無職者の区分が不詳の者は含まれず。
（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」）

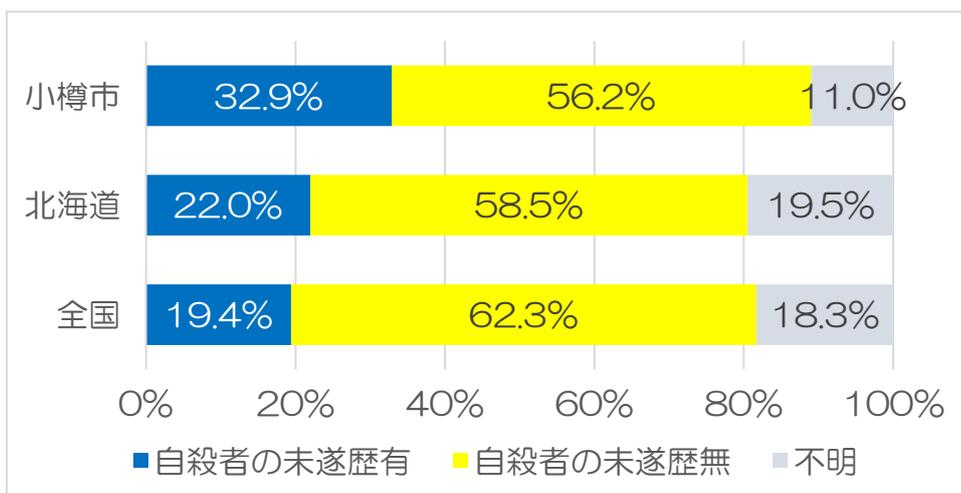
表 10 自殺者の同居人の有無（平成 29 年～令和 3 年 合計）



（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2022）」）

■同居人有の自殺者割合が高く、全道・全国ともに同様の傾向である。

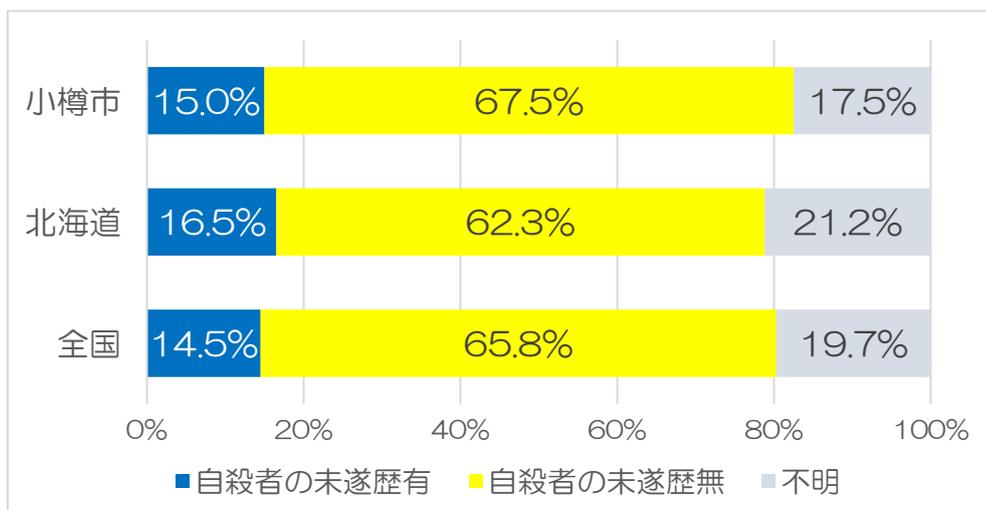
表 11 自殺者の未遂歴の有無（全体）（平成 29 年～令和 3 年 合計）



（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2022）」）

■3割の人に未遂歴があり、全道・全国と比べて高い。

表 12 男性の自殺者の未遂歴の有無（平成 29 年～令和 3 年 合計）

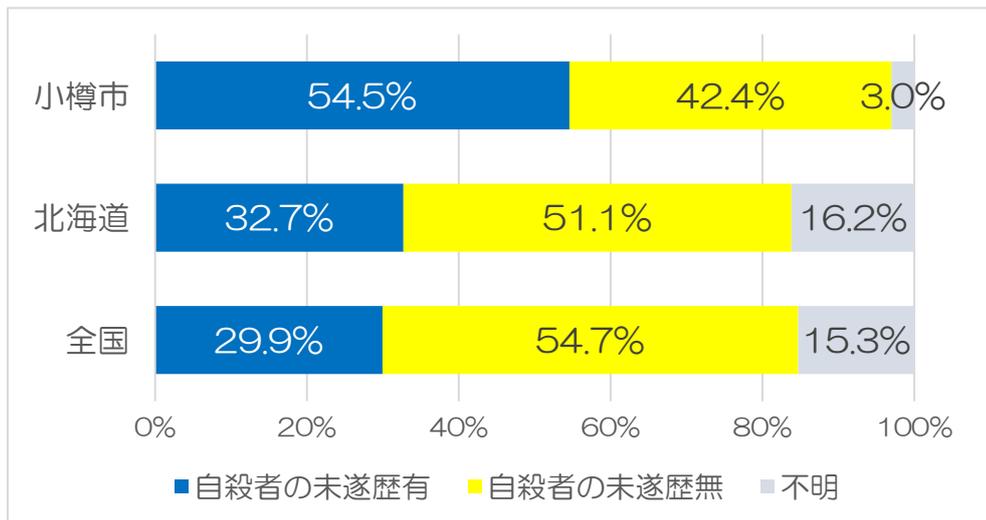


（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2022）」）

■表 12、13 より未遂歴の男女比較では、女性の方が自殺未遂歴の割合が高い。

■男性の未遂歴は、全道・全国と比較し大きな差はないが、女性は全道・全国よりも高い。女性の自殺者の半数以上に未遂歴があった。

表 13 女性の自殺者の未遂歴の有無（平成 29 年～令和 3 年 合計）



（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」）

表 14 小樽市の主な自殺者の特徴 上位 5 位（平成 29 年～令和 3 年合計）

| 自殺者の特性上位 5 区分 | 自殺者数 (5 年計) | 割合 | 自殺死亡率 (10 万対) | 背景にある主な自殺の危機経路 |
|--------------------|----------------|-------|------------------|--|
| 1 位:男性 60 歳以上無職独居 | 11 | 15.1% | 80.8 | 失業（退職）＋死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺 |
| 2 位:女性 60 歳以上無職同居 | 11 | 15.1% | 13.1 | 身体疾患→病苦→うつ状態→自殺 |
| 3 位:女性 40～59 歳無職独居 | 5 | 6.8% | 130.3 | 夫婦間の不和→離婚→生活苦→ うつ状態→自殺 |
| 4 位:男性 20～39 歳無職同居 | 5 | 6.8% | 71.7 | ①【30 代その他無職】ひきこもり＋ 家族間の不和→孤立→自殺 ②【20 代学生】就職失敗→将来悲観 →うつ状態→自殺 |
| 5 位:男性 40～59 歳無職同居 | 4 | 5.5% | 65.6 | 失業→生活苦→借金＋家族間の不和→ うつ状態→自殺 |

※ 上位 5 位の中に女性が占める割合が小樽市は 21.9%（全道は 14.9%、全国は 8.8%）

（平成 29 年～令和 3 年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」）

【 地域自殺実態プロファイルの分析から見た小樽市の現状 】

- 令和 3 年自殺者は 12 名、自殺率は 10.7 で国の目標値（13.0 以下）を達成している状況。
- 男性の自殺率は全年齢を通じて全道・全国と比較し低く、特に 40 歳代男性の自殺率が低い。男性の自殺率の低さの背景として、有職者の自殺者が少ない・無職者の自殺の多さが関係している可能性がある。
- 20 歳代・50 歳代の女性の自殺率が全道・全国と比較し高い。
- 全自殺者に占める 60 歳以上の高齢世代の割合が増えている。
- 自殺未遂歴が全道・全国よりも高く、特に女性の未遂歴が高い。
- 自殺死因上位に占める女性の割合が全道・全国と比較し高い。

【 小樽市の自殺対策において重点的に取り組むべき課題 】

国は全ての都道府県及び市町村の自殺の実態を分析した「地域実態プロフィール」を作成し、各自治体は、このファイルを参考に地域の自殺の実態を把握し、地域の実情に応じた自殺対策を推進しています。
小樽市においては、下記の3分野で優先的に取り組むよう推奨されました。

高齢者

無職者・失業者

生活困窮者